

我孫子の景観を育てる会

## 景観あびこ

## 我孫子景観基礎研究 その3：最新の都市公園事例が変える緑地景観の可能性

建築家・工学博士 野口 修（会員）

## 3-3. 事例3：『上野恩賜公園』の地域力

事例2で挙げた『隅田公園』のオープンカフェ2店舗の内、ひとつはコーヒーチェーン店のタリーズコーヒーだった。昨今の飲食系企業は、地域コミュニティーや環境に対する関心が非常に高い。ここでも木を多用した店舗は、沿道の並木と調和し、周辺景観への気配りを感じさせる設計だった。

同じくチェーン店のスターバックスコーヒーの店舗が、東京都台東区の『上野恩賜公園』に出店していること思い出し、訪ねてみることにした。

平日の昼間なのに店内の71席、テラスの69席ともほぼ埋まっている。観光客らしい外国人も多い。約10分並んで席を確保した。木造平屋、切妻屋根の店舗は周囲の木々より高さを抑えている。間仕切りが少なく、開放的な雰囲気の内を観察していると、東京芸術大学（芸大）の学生が描いた数点の絵が展示されていることに気付いた。

この公園は芸大の庭先だった！と思い、調べると、園内の施設と芸大が連携する活動をいくつか見つけた。

例えば「とびらプロジェクト」は、公園内に建つ東京都美術館と東京芸術大学が連携して行うアート・コ

ミュニティ形成事業と説明される。筆者の解釈で言えば、東京都美術館を活用して市民が芸術と親しむ機会、あるいは芸術を介した新しい対話の場をつくる活動で、運営には芸大関係者の他、毎年更新されるボランティアがあたっている。

ところで『上野恩賜公園』は、1873年の太政官布告で整備された日本初の公園のひとつだ。

なかでも美術館や博物館、上野動物園等の芸術・教育・文化施設に加えて、モダンな料理を出すレストランも整った本公園は、大人も時間を過ごせる特別な場所だった。しかし、時代と共に市民の遊び場が多様化し、特別感が失われる中、地域の“若い力”と連携した持続を模索している。

景観を長く保全するためには、若い引継ぎ手を集め、育成する努力も必要なのではないか？

ここまで書いて、手賀沼の保全活動に寄与した杉村楚人冠も俳句結社「湖畔吟社」を通じて地元の青年層と交流したり、東京朝日新聞千葉版への投書『手賀沼の為に』の中で若い世代向けのレジャー施設を構想していたことを思い出した。



写真1: カフェ外観 ※スターバックスコーヒー上野恩賜公園店  
○「Museum Start あいうえの」 ※上野公園全体を、こどもたちが使い易い学びの場として整備するため、園内の上野の森美術館・国立西洋美術館・東京都美術館・東京国立博物館・恩賜上野動物園・国際子ども図書館・国立科学博物館・東京芸術大学・東京文化会館が連携して進める事業。



写真2: 「あいうえの」看板



写真3: 東京都美術館



写真4: 公園外観  
※上図カフェはH24年に再生整備された“竹の台広場”に在る2店舗の内、ひとつ。



写真5: リーフレット  
※東京都美術館の1階ラウンジに置かれた「とびらプロジェクト」のリーフレット

## ■事例3：『上野恩賜公園』の景観と教育事業